

電波利用環境委員会報告(案)概要

～CISPR I 関連会議等の対処方針について～

令和2年10月13日
電波利用環境委員会
CISPR I作業班

【主なトピック】 主な審議状況及び対処方針(Ⅰ小委員会)

Ⅰ小委員会：情報技術装置・マルチメディア機器及び受信機の妨害波に関する規格を策定

放射妨害波測定における測定対象機器の電源ケーブルの終端条件設定

1) 背景と課題

マルチメディア機器の電磁両立性(EMC)適合性試験の一つである放射妨害波の測定において、異なる試験場で測定した場合でも同じ測定結果を得るためには、測定対象機器の電源ケーブルの終端条件を規定する必要がある。

2) 課題の解決方法

我が国が主導し4大陸9か国16試験場の協力を得て、異なる電源ケーブル終端装置を用いた場合に、放射妨害波の測定結果がどのように変化するか比較測定を実施した。この結果、電源ケーブル終端装置をVHF-LISN*とした場合に、最も適切な測定結果が得られたことから、我が国は、VHF-LISNを終端条件とすることを提案し規格化を推進している。

* VHF-LISN(電源線インピーダンス安定化回路網)：測定対象機器に供給する交流電源のインピーダンスを安定化することにより、使用交流電源の違いによる測定値の偏差を少なくすることが可能。

具体的には、以下の内容について規格化し問題解決を目指す。

- ・マルチメディア機器(CISPR 32)の放射妨害波の測定条件として提案
- ・測定法に関する基本規格(CISPR 16-1-4(測定用アンテナ・測定場)及びCISPR 16-2-3(放射妨害波測定)に終端装置及び測定配置の条件として提案

3) 審議状況

- ・本件は測定法の基本規格を所掌するA小委員会とのジョイントアドホックグループ(SC-A&I/JAHG6)において、我が国メンバがコー・コンビナーを担当して標準化を推進している。
- ・英国提案のデバイスと合わせて国際ラウンドロビンテストを実施し、我が国提案のVHF-LISNは良好な結果が得られ、英国提案のデバイスは詳細な仕様の明確化が課題となった。現在、ラウンドロビンテストの結果報告と、CISPR 16-1-4及びCISPR 16-2-3に盛り込むための最初のCD文書に、各国コメントを反映した修正案を準備している。

4) 対処方針

CISPR 32、CISPR 16-1-4(測定用アンテナ・測定場)、CISPR 16-2-3(放射妨害波測定)の改定版が発行されるまでの審議・作業を、引き続き我が国が積極的に主導していく。

